

コスト削減計画

建設費

平成 15 年度以降の残事業費に対して規格変更等により 8%(約 870 億円)、新たな契約方式の導入等の更なるコスト削減により、合わせて 10%(約 1,085 億円)削減します。今後さらに事業区分の見直し等により、合計で約 20%程度の削減を目指します。

＜主な施策と削減見込額＞

(平成 15 年度以降の残事業費 約 10,850 億円に対する削減見込額(概数))

(単位:億円)

項目	代表的な施策	削減見込額 (概数)
規格変更	・止水性の向上や新たな耐火対策等の開発によりセグメントを覆うコンクリート(二次覆工)を削減し、トンネル断面を縮小 ・交通量を勘案して、パーキングエリア(PA)の整備の見直し ・暫定 2 車線整備 ・車線幅員の縮小	▲380
工法の見直し	・シールドセグメント製作において高流動コンクリートを使用することにより振動締め固め等の工程を削減 ・大規模補償物件を回避するため橋脚等の位置、構造の見直し	▲250
契約方法の見直し	・発注規模の拡大	▲140
その他	・近年の地価動向を反映した用地費の精査	▲100
小計		▲870
更なる削減	・新たな契約方式の導入等	▲215
合計		▲1,085

管理費

平成 17 年度には、平成 14 年度と比較して、20%以上、競争性の高い契約方法の導入等の更なるコスト削減により、合わせて 3 割削減します(新規開通等に伴う増を除く。)。平成 17 年度には▲33.0%の削減となり、削減目標を達成することとなります。

＜参考＞

○削減見込内訳(新規開通等に伴う増を除く)

(単位:億円)

	H14	H16			H17		
		予算	削減額	削減見込率	予算	削減額	削減率
維持修繕費	418	328	▲ 90	▲21.5%	275	▲ 143	▲34.2%
改築費	349	223	▲ 126	▲36.1%	210	▲ 139	▲39.8%
業務管理費	287	223	▲ 64	▲22.3%	188	▲ 99	▲34.5%
一般管理諸費	25	20	▲ 5	▲20.0%	16	▲ 9	▲36.0%
給与関係諸費	170	152	▲ 18	▲10.6%	149	▲ 21	▲12.4%
合計	1,250	946	▲ 304	▲24.3%	838	▲ 412	▲33.0%

注 1. 新規開通路線とは、中央環状線(板橋～江北 7.1km:中央環状王子線)、大宮線(2.3km)、本牧ジャンクション等のことである。

2. 平成 17 年度の新規開通路線に伴う増を含めた額は維持修繕費 286 億円、改築費 210 億円、業務管理費 200 億円等合計 861 億円となり、平成 14 年度と比較して、389 億円(▲31.1%)の削減となる。

3. 平成 17 年度には、新たな契約方式の導入等による削減額を含む。

4. なお、予算執行に当たり、新たな削減策が実施可能となった場合、順次採用していくこととしている。

○＜管理 4 業務※ 削減見込額＞(新規開通等に伴う増を除く)

(単位:億円)

	H14	H16			H17		
		予算	削減見込額	削減見込率	予算	削減額	削減率
料金収受業務	150	116	▲ 34	▲22.7%	96	▲ 54	▲36.0%
交通管理業務	38	29	▲ 9	▲23.7%	24	▲ 14	▲36.8%
維持修繕業務	117	86	▲ 31	▲26.5%	75	▲ 42	▲35.9%
保守点検業務	124	90	▲ 34	▲27.4%	81	▲ 43	▲34.7%
合計	429	321	▲ 108	▲25.2%	276	▲ 153	▲35.7%

※ 料金収受業務及び交通管理業務は業務管理費、維持修繕業務及び保守点検業務は維持修繕費に含まれる。

注 1. 新規開通路線とは、中央環状線(板橋～江北 7.1km:中央環状王子線)、大宮線(2.3km)、本牧ジャンクション等のことである。

2. 平成 17 年度の新規開通路線に伴う増を含めた額は 285 億円であり、平成 14 年度と比較して、144 億円(▲33.6%)の削減となる。

3. なお、予算執行に当たり、新たな削減策が実施可能となった場合、順次採用していくこととしている。